

庭のあるシェアハウス

名古屋市内に建つシェアハウス。南側に建てられた既存棟と同じ施主による2棟目。1棟目はシェアハウスのプロトタイプを模索する建ち方が提案されたが、今回は場所性を意識した空間性の追求を試みた。

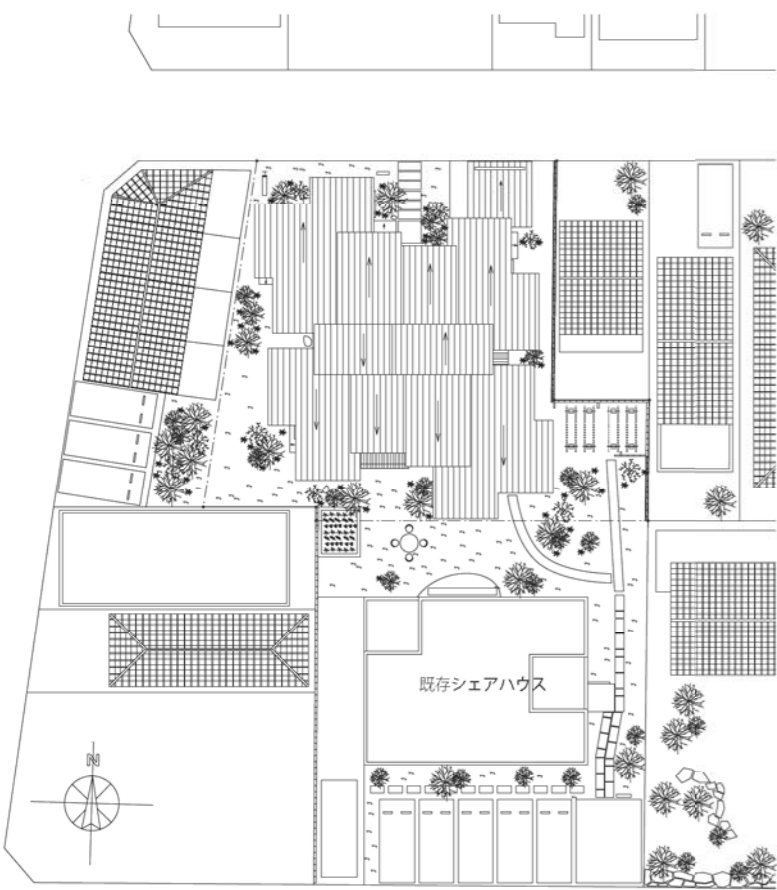
シェアハウスはパブリックとプライベートが明確に分かれていることが多い。街というパブリック空間に対しては閉じ、内側にのみ濃厚なコミュニティ空間がある。その内部のコミュニティ空間は人が集まる共有部と、ひとりになれる閉じた個室で構成される。しかし、パブリック空間にも個々の活動が生まれ、プライベート空間にもパブリックが感じられる場がある方が、生活の自由を生むと考えた。

■生活感のない大きな箱をつくと街に圧迫感を与え、シェアハウスの生活が分らないことが地域住民を不安にする。そこで個室を雁行配置し、小さな庭を周囲に分散させ、個人の生活が街と少しだけ接点を持つようにしている。分割したボリュームには周辺住宅と同じような勾配を付け、小さな住宅が集合して建っているような行まいで街のスケール感を連続させた。

■1棟目の裏庭を2棟目で挟み込み、双方の中庭としている。積極的に使われていなかった裏庭に対し、平面に凹凸をつけ、共有する畑を設け、1棟目の住人も浴室を使えるようにして程よい距離感を保ち、自然な交流が生まれるように考えた。

■共用部における個人の居場所をつかった。分割された切妻屋根をそのまま内部で勾配天井とし、高さを活かした「開放的な共用部」と、低く抑えられた「落ち着きのある個室」をつくり出した。その両方を繋ぐ中間的な領域に、他人の存在を感じながら一人でいられる場所や、共用部で個人の所有物が溢れることを促す装置が必要と考えた。

職住が分離し、応接間が消えた現代において、住宅はプライベート空間のみになりつつあるが、パブリックとプライベートを内包するシェアハウスは街に開ける可能性がある。



配置図兼屋根図 5-1/200



小さな屋根が集まることで個人が集まるシェアハウスであることを暗示している



勾配天井により落ち着きのある2階個室（16号室）



掃出し窓により庭とダイレクトにつながる個室



人の存在を感じながら一人でいられる個人の居場所を見渡す



リビングから既存シェアハウスとの交流の場である中庭へとつながる



2階ラウンジに設置されたスタディーコーナー 屋根の段差部に設けたハイスайдより全体に光が差す



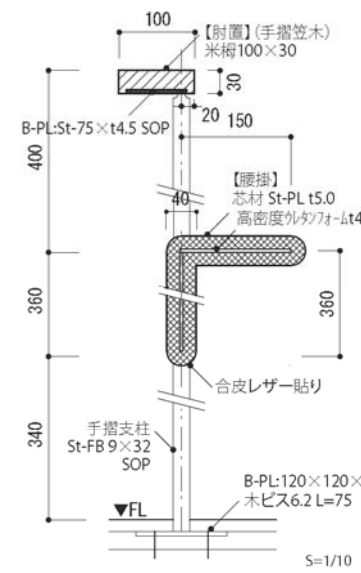
吹抜周りの手すりに居場所のきっかけとなる仕掛けを付加



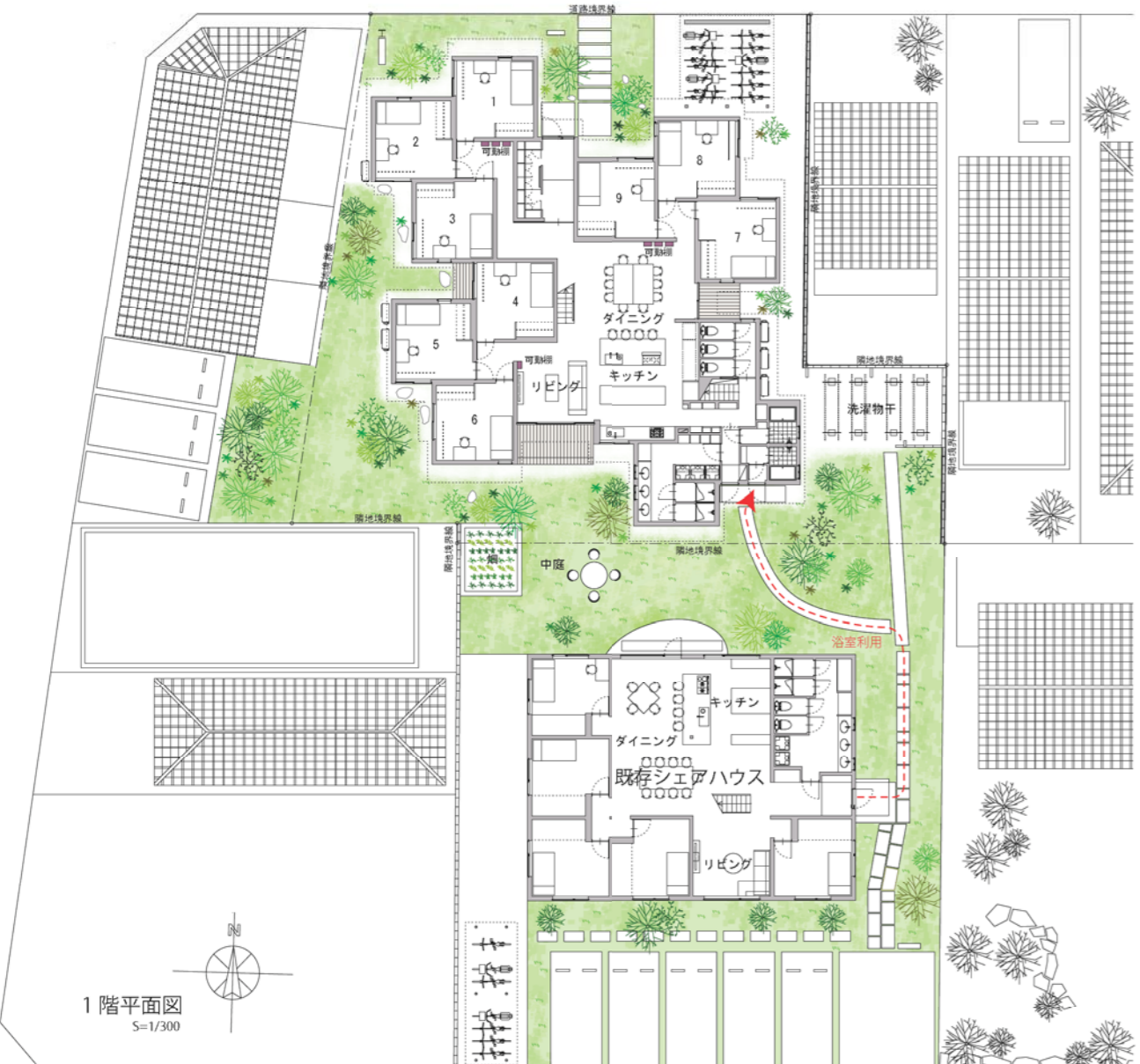
北側外観 周囲のまちなみを踏襲した切妻屋根の連続と前面道路に対して抑えられた軒高



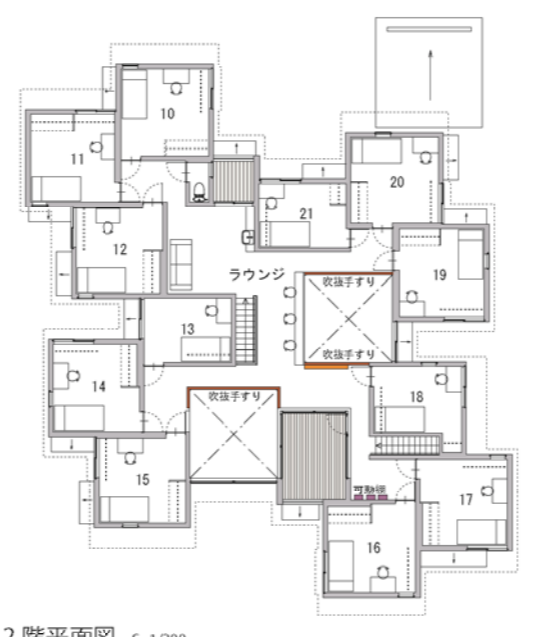
個室前に設置された可動展示棚 個室からにじみ出る住人の個性を受け止める



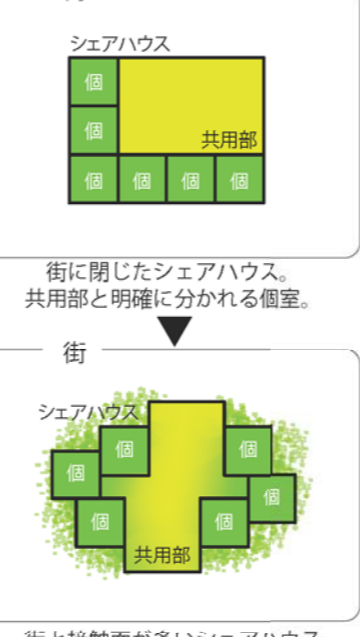
居場所づくりの仕掛 吹抜手すり詳細図



1階平面図 5-1/100



2階平面図 5-1/100



街と接面が多いシェアハウス。共用部と明確に分かれる個室。



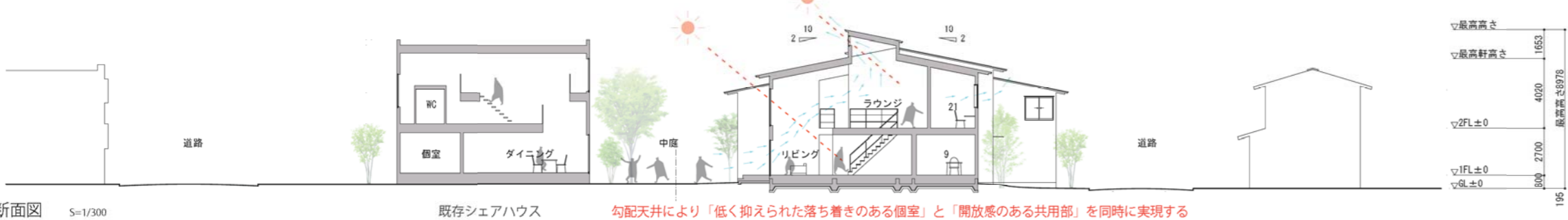
住人による畑を利用したワークショップの様子



既存シェアハウスとの間にある中庭 住人同士の交流の場となる



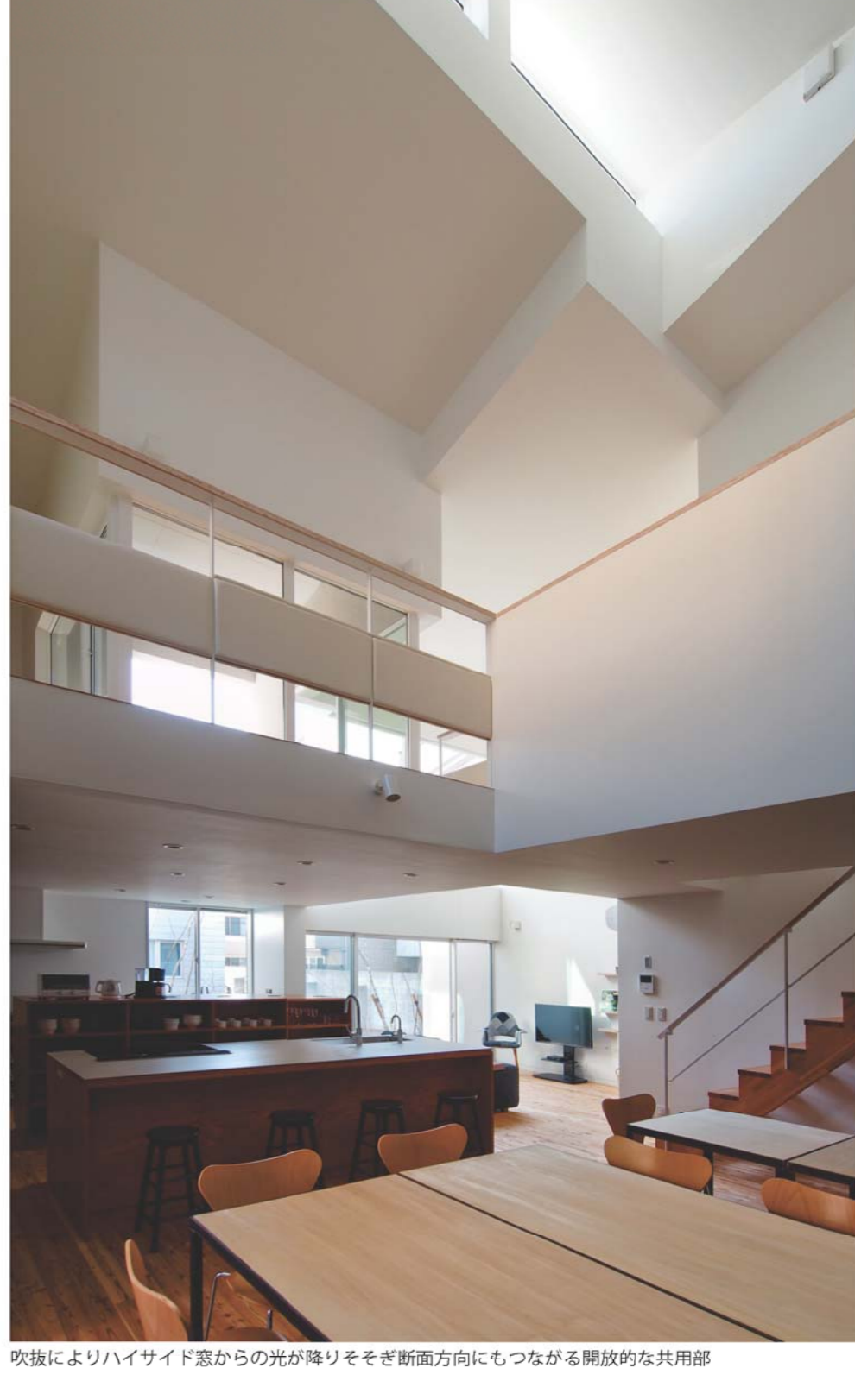
小さな住宅が集合して建っているような行まいで街のスケール感を連続させる



断面図 5-1/100

既存シェアハウス

勾配天井により「低く抑えられた落ち着きのある個室」と「開放感のある共用部」を同時に実現する



吹抜によりハイスайд窓からの光が降りそそぎ断面方向にもつながる開放的な共用部